

ユーザーグループ運営ステーションに関する覚書(BL-18C)

- 1 (目的) 放射光科学研究施設(以下、PF と呼ぶ)における放射光利用実験に関するユーザーグループ(以下 UG) の活動を尊重し、研究活動の活性化に資するとともに、ステーション運営の効率化をはかるために、UG と PF が共同で運営する実験ステーションまたは装置を設ける。以下、これを UG 運営ステーションと呼ぶ。
- 2 (要件) PF は、当該実験ステーションまたは装置(以下、ステーション等と呼ぶ)を熟知している PF 懇談会内の UG から提出された計画書を基に、UG との間に本覚書を取り交わし、ステーション等の運営を委嘱する。
- 3 (運営ワーキンググループの構成員) 当該 UG は、所内担当グループと協議の上、代表者および若干名からなる運営ワーキンググループ(以下運営WG)メンバーを選任し、ステーション等の運営の実務を行う。運営WGメンバーに対しては高エネルギー加速器研究機構共同研究員を委嘱する。
- 4 (連絡) PF 側は当該ステーション等の担当職員を指名して運営WGとの連絡調整を行う。
- 5 (UG 運営ステーションの範囲) UG 運営ステーションは、実験装置がビームラインに固定されている場合は実験装置および BBS より下流の光学系、ビームラインコンポーネントを含むものとする。当該ビームラインのシャッター、実験ハッチ等の安全にかかわる機器の管理は PF が行う。その他、ビームラインの光学素子等の維持・改良についての分担は PF および運営 WG の間で協議してきめる。ビームラインに固定されていない装置の場合は当該実験装置のみとする。安全に関わる緊急対応は PF 側担当者が行う。
- 6 (運営WGの役割) 運営WGは共同利用実験が円滑に行われるように、前項で決められた機器の定常的な維持・管理及び、一般ユーザーの実験支援、新規ユーザーの教育を PF と協力して行う。
- 7 (PF の役割) 提出された計画書・予算要求に基づき、PF は全体計画との調整の上予算配分を決定する。共同利用に関わる事務手続き、予算執行は PF 側担当者が行う。また上記業務に関わる運営WGメンバーの出張に関しては本機構の共同研究員として扱う。
- 8 (ビームタイム配分) ビームタイム配分は、基本方針は PF ビームラインに準じるが、運営WGの意見を尊重する。
- 9 (運営WGの権利) 運営WGは調整、保守、管理のためのビームタイムをとることができる。また共同研究員となっている運営WGメンバーは PF 職員に準じて「優先ビームタイム」を申請できる。
- 10 (その他) 詳細な役割分担は運営WG代表者と PF 側担当者が協議して決める。
- 11 (有効期間) この覚書の有効期間は3年とし、更新に際しては当該期間のユーザーグループの活動に関する協議を PF と行うこととする。

2009年 9月 2日

上記事項を了解します。

高圧ユーザーグループ
物質・材料研究機構

主席研究員

竹村 謙

物質構造科学研究所

放射光科学研究施設長

若槻 壮市



ユーザーグループ運営ステーション

運営ステーション名	超高压粉末X線回折ステーション
ユーザーグループ名	高压
利用ビームライン (ハッチ) 名	BL-18C
運営ステーション実施の概要	ユーザーグループとPFが共同で上記ステーションの運営を行う。詳細は別紙「 <u>実施要領</u> 」による。
運営WG代表者名 (所属・職名)	中野智志 (物材機構・主幹研究員)
運営WGメンバー (所属・職名)	永井隆哉 (北大・准教授) 武田圭生 (室蘭工大・助教) 中野智志 (物材機構・主幹研究員) 鍵 裕之 (東大・准教授) 船守展正 (東大・准教授) 佐藤友子 (東大物性研・物性研研究員) 岡田宏成 (日大・助教) 中山敦子 (新潟大・准教授) 大村彩子 (新潟大・助教) 森 嘉久 (岡山理大・准教授) 平井寿子 (愛媛大・G-COE 教授) 町田真一 (愛媛大・G-COE 研究員)
PF側担当職員名 (職名)	亀卦川卓美 (放射光科学第二研究系・講師)
期間	2009年10月より2012年3月まで